

九州正教会だより

第56号



(福岡・熊本・人吉・鹿児島)

2024年5月1日発行

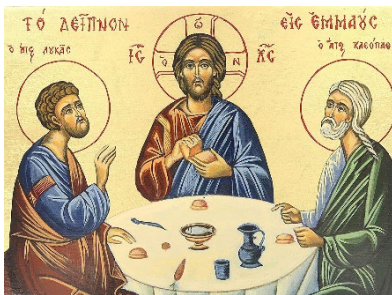
発行人：司祭グリゴリイ水野 宏

〒868-0081 熊本県人吉市上林町979-5 人吉司祭館

TEL / FAX 0966-24-7861

mail ocj.kyushu@gmail.com

ウェブサイト <https://www.ocj-kyushu.com/>



燃える心

司祭グリゴリイ 水野 宏

今年、世界の正教会は5月5日に復活大祭を迎えます。

聖書によれば、復活したイエスに最初に会ったのはマグダラのマリアですが（ヨハネ 20:14）、男性ではクレオパともう一人の弟子（ルカと考えられている）の二人です。この時の様子は、ルカによる福音書 24 章 13 節から 35 節に詳しく書かれています。

刑死して墓に葬られたはずのイエスの遺体が忽然と消えたことが発見された日、二人がエルサレムから近郊のエマオという村に向かって歩いていたところ、突然イエスが現れて一緒に歩き始めました。しかし、二人はそれが復活したイエスだとは気づきませんでした。イエスは「ああ、物分かりが悪く、心が鈍く預言者の言ったことすべてを信じられない者たち」（ルカ 24:25）と嘆き、「モーセとすべての預言者から始めて、聖書全体にわたり、ご自分について書かれていることを説明」（同 24:27）しました。

日暮れになり、彼らは宿に入って夕食を食べることにしました。イエスが「パンを取り、讚美の祈りを唱え、パンを割いてお渡しになった」（同 24:30）瞬間、初めて「二人の目が開け、イエスだと分かったが、その姿は見えなく」（同 24:31）なってしまいました。彼らはイエスの復活に感動して「道で話しておられるとき、また聖書を説明して下さったとき、わたしたちの心は燃えていたではないか」（同 24:32）と語り合いました。

イエスが割いて渡したパンとは復活したキリストの体、聖体そのものです。つまり、いくら聖書の字面だけ読んでも、復活の神秘は必ずしも理解できるものではなく、聖体を通して初めて現実のものとして受け入れられるということを、この記述は示しています。

私たちもこの二人の弟子たちのように、燃える心で来たる復活大祭を迎え、聖体礼儀に参拝して永遠の生命の恵みに与りましょう。